

あいかんきょう



2017/7/20

会報・第132号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会

創立40周年記念号



「ニコウキスゲの咲く丘に」 撮影地：長野県茅野市 車山高原 撮影日：平成28年7月21日
提供：角 信彦氏 株式会社愛研

車山高原の夏の代名詞「ニコウキスゲ」です。丘の上には気象レーダー観測所が見えます。自然環境保護に十分配慮された規模・構造で、長野県を中心とする広い範囲の気象を観測でき、我々の生活に役立っています。ふもとに咲くニコウキスゲは天候に左右されずに7月になると必ず花を咲かせ、そして1日でしぼんでいきます。青空に花桃の淡いピンクがとできれいです。

目次

創立40周年記念特集	2	新理事紹介	8
委員会報告・今後の抱負	4	環境・時の話題	10
ブロック紹介・今後の抱負	6	私の履歴書(追補版)	11
定時社員総会	6	事務局からのお知らせ	12

四季折々

毎年この時期悩まされるのが蚊です。知らぬ間に家に侵入し静かに攻撃してくる厄介者、足の指なんか刺されたらたまりません。▼就寝中、羽音に気付くと撃退するまで安眠できないので、照明最大にして格闘しますが、敵は意外に素早く、素手ではなかなか捕まってくれません。慌てて叩くと右手と左手がズレちゃったり、逃すと姿をくらましたりで真夜中の戦いは長丁場となりがちです。▼うちの娘は蚊に刺されると患部が化膿し腫れの長引くことがあり、以前顔を刺され気の毒なことになりました。それ以来、我が家では全員、外出時の虫よけ対策を念入りするようになり、1シー

ズンに4～5本は虫よけスプレーを空にしています。▼ベランダでは昔ながらの蚊取り線香を使用しますが、煙の中を平気で飛んでくる強者もいるので安心できません。▼室内ではリキッド式、持続性スプレー、瞬殺スプレーなどを常備し、中でも3年ほど前から使用している電撃ラケットがお気に入りです。ちょっと大きいのが玉に瑕ですが空気を汚さず、素手と違いほぼ確実に退治できます。仕留めた時の「パチッ」の音がなんとも快感。蚊でお困りの方、お手元に用心棒ならぬ、用心ラケットいかがでしょう。

(文責:近藤 賢)

～創立40周年記念特集～

愛環協

創立40周年を迎えて

一般社団法人
愛知県環境測定分析協会

会長 河野達郎



一般社団法人愛知県環境測定分析協会は、創立40周年を迎えることができました。

ひとえに、協会設立当時からご尽力いただいた会員企業の皆様、賛助会員の皆様、そして協会活動にご理解とご協力をいただいた関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

また、愛知県様には、災害緊急時の調査協定書の締結や立入り検査の実態セミナーの開催等、他の県単には見られないパートナーとしての良き関係を構築させていただき、その期待に応えるべく今後も協会活動を推進して参ります。

さて、愛環協が他の県単と違う先進性のひとつとして、年間10回を超える様々な研修会やセミナーの開催があります。新任者から中堅実務者、環境計量士といった技術レベルに応じたカリキュラムの設定、水質から大気、騒音振動の定期的なクロスチェック実施に対し、その結果を踏まえた意見交換会の開催は、すばらしいアフターフォローとして参加者からも高い評価をいただいています。

2つ目の特徴として、独立した事務所を所有していることです。愛環協は設立間もない時点から事務所を設け、事務局長を雇用した組織運営を行っています。交通の利便性の高い金山にあるため、理事会や委員会活動のすべてをその事務所で開催することができ、会員間の密な交流や新規プログラムの検討等、確実な成果をあげる影の力となっています。

3つ目の特徴に、ボランティア活動の推進があります。なかでも、愛知県のものづくりコンテストへの支援では、化学を志す高校生が取り組む分析競技会へのサンプル提供や審査員派遣等を長年続けており、楽しい行事のひとつにもなっています。

協会を取り巻く厳しい経営環境は簡単に払拭できるものではありませんが、次世代経営層によるこれまでにないビジネスの創出や企業間の連携運動が、新たな活性化への息吹となって輝くことを期待しております。

愛環協の真価は、創立40周年を迎えまさにこれからが正念場であり、50周年に向けて心新たにスタートを切って参ります。

愛環協

創立40周年に寄せて

愛知県知事 大村秀章



一般社団法人愛知県環境測定分析協会が創立40周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴協会は、その前身である愛知県環境測定分析業協議会の時代から、環境測定・分析における技術者の育成、測定分析精度向上のための各種共同実験など、正確な測定・分析を行っていくために大変重要な取組を行っておられ、本県の環境保全に多大な貢献をされてきました。協会運営に御尽力された歴代役員並びに関係各位に対しまして、深く敬意を表する次第です。

御案内のとおり、環境問題は、昭和40年代の産業型公害から、その後の都市・生活型公害、さらには近年の地球環境問題と、時代とともに変遷してきておりますが、いずれの問題についても、正確な環境測定により裏付けされた測定結果による評価等が不可欠であります。

本県としましては、平成26年5月に策定した第4次愛知県環境基本計画で、「環境首都あいち」の実現に向けて、県民の健康や生命の保護を第一とした「安全・安心の確保」を最優先として取り組むこととしております。貴協会の会員の皆様方の正確な環境測定・分析業務は、県民の安全・安心の確保において重要な役割を担っていただいていると考えており、深く感謝申し上げます。

また、本県では、平成17年に開催された「愛知万博」、平成22年10月の「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」、平成26年11月の「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」という国際会議で生まれた高い環境意識を原動力に、企業やNPO等の多様な主体による環境保全等に向けた種々の取組が活発に行われています。こうした成果を発展させ、次の世代に引き継いでいくことが使命・役割と考え、多様な主体との連携・協働を図りながら、持続可能な未来の担い手を育成する「人づくり」を推進しております。貴協会が、毎年、環境計量士等に対する研修会を開催されるなど、環境測定・分析面における人材の育成に積極的に取り組んでおられることは、まさにこの担い手育成、人づくりであり、大変心強い限りであります。

最後に、この度の40周年を契機として会員の皆様方の連携が一層深まり、今後の活動が一段と実り多きものとなることを期待いたしますとともに、貴協会の今後のますますの御発展と、会員の皆様方のさらなる御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

愛環協 創立40周年に寄せて一般社団法人
愛知県環境測定分析協会顧問 **濱地 光男**

一般社団法人愛知県環境測定分析協会40周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昭和52年8月に協議会として設立総会が行われ、私も出席いたしました。それは昨日のように思い出されます。環境測定分析業という日本では新しいビジネスの始まりで、皆さん若く希望に満ちた出発式のような雰囲気でもありました。

それから40年愛環協の活動には目を見張るものがあり、全国の県単組織からも注目されるほどの組織となりました。現在もこの活発な活動が引き継がれてきていることは素晴らしいことと思っております。

平成8年には県単組織では初めての法人組織となり、愛環協の事業活動は環境計量証明事業者の地位向上に大きな役割を果たされました。そして会員への技術向上プログラムの提供、環境情報の発信などは無論のこと愛知県環境部並びに愛知県計量センターのお力も借りて、県民向け環境月間講演会を開催。愛知県の化学系工業高校によるものづくりコンテストへの協力、協賛など化学を目指す学生たちの支援など公益的な事業にも力を注いでこられました。このような事業も他の県単には見られない活動の一つであります。

今後とも多方面のお力を借りつつ、環境保全の一端を担う団体としてさらに協会事業を発展せられることを願って愛環協創立40周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

**愛環協 創立40周年に寄せて
新しい力**

○「オオサンショウウオ」

株式会社環境科学研究所

岩田 茂

私には、7歳になる息子がいます。山や川など自然で遊ぶのが大好きな子供です。家の裏には田圃が広がっており、水を引くための水路があります。その水路にはカワナ、ドジョウ、ザリガニ、ナマズやフナの子魚等が生息しており、子供達を楽しませています。水辺で戯れる子供達の笑い声を耳にすると、環境保全に係わる仕事に従事していることを誇りに感じます。

私も子供のころ、近所にある小川でよく遊んでいました。

その小川には、オオサンショウウオが生息しており、泳いでいる時に何度か遭遇し驚かされた事を今でも鮮明に覚えています。

先日、帰省した際に息子と小川に釣りをしに出かけました。20数年ぶりに見た小川は、子供のころと変わることなく、澄んだ水を湛え水面を輝かせながら悠々と流れていました。私は、その光景に子供の頃の思い出が甦り、息子にオオサンショウウオを見せたいという思いと、古い友人に会うかのような懐かしい気持ちに突き動かされました。川虫、ホタル、アマゴ等は昔と変わらず沢山見つけましたが、オオサンショウウオは残念ながら見つかりませんでした。しかし、変わらない生態系を確認したことで、オオサンショウウオもこの小川のどこかにいるという安堵感を得ることができました。

私は入社後、環境水、水道水、土壌、悪臭そして食品など様々な分析業務に携わってきましたが、経験年数を重ねる毎に、モノを正確に量る難しさと責任の重さを実感しています。その上、環境計量証明事業は、信頼性の確保された分析を実施することで、子供たちが受け継ぐべき自然を見守り、未来へと繋げていく役割を担っていると思っております。

愛環協は創立40周年という記念の年を迎えましたが、子供達が大人になっても自然や生物が良好に共存出来るそんな年が、ずっと続くことを願いつつ、いずれまた親子でオオサンショウウオを探してみたいと思います。

○「環境測定分析への思い」

株式会社イズミテック

萩原 沙羅

私はこの春、愛知県立岡崎工業高等学校の化学工業科を卒業して、豊橋にある株式会社イズミテックに入社しました。環境計量証明事業の会社を志望した理由としては、高校で化学について3年間学んできたことや、化学分析や化学実験がもともと好きだったことがあります。しかしこの仕事を選んだ一番の理由は、会社見学に行かせて頂いた時、白衣や作業着を身にまとい、実験器具を片手に真剣に分析している先輩社員の姿に憧れを抱いたからでした。

入社後の私は、化学に関する知識が豊富とはいえ、高卒で経験も少ないため、仕事に対する不安を感じ、自信を持てずにいました。そんな時に6月に開催された愛環協の新任者研修会に参加する機会をいただきました。その研修会では、講師の方に環境計量の大切さを教えていただき、これからは経験と知識と技術を身につけて技術者として成長し、確かな分析をすることが世の中のためになると思えるようになり自信ができました。

今では環境を守りたいという人々の大切な思いに環境測定サービスが貢献しているところにとっても魅力を感じて

います。分析測定の仕事は、指示通りの作業をただ正確に行うだけではなく、お客様の環境に対する熱意を理解してこそ成り立つものだと思います。

環境測定分析への理解をもっと深め、自分が受け持つことになる分野に専念し、沢山のことを覚え、前向きに挑戦し、正確な分析測定サービスができるようになり、地域の環境がもっと良くなるのが今の私の夢です。

今はまだ分からないことばかりで先輩社員の方を頼らずにはられません。しかしそれが新人の特権だと教わりました。未熟な間に沢山のことを身につけて自分が憧れている先輩社員に少しでも近づけるよう、何事も諦めずに未来に向けて頑張りたいと思います。

環境計量証明事業登録制度のスタートから3年後の昭和52年に発足し、環境行政と一体となって公害対策に取り組んできました。しかし、近年では多項目・低濃度分析、国際規格の導入など高度な分析技術に加え、測定分析データの報告だけでなく問題解決に向けた技術的対策や情報提供などの付加価値が要求されるようになりました。

協会40周年を迎える今、協会会員皆様の多面的なアイデアを持ち寄り、委員会活動がイノベーションに役立てる様、委員の皆さんと検討、励まし合っていきたいと思えます。

委員会活動報告及び今後の抱負

☆総務委員会

委員長 大野 哲
株式会社イズミテック



本年度第1回となる総務委員会を5月9日に開催いたしました。委員会では、優良従業員表彰候補の方に対する厳正な書類審査と平成28年度景況調査結果の確認を行いました。5月25日に開催されました本年度定時社員総会にて優良従業員表彰を受けられました皆様の更なる成長と各会員事業所の発展をご祈念申し上げます。また景況調査結果につきましては本誌にて発表をいたしますのでご高覧をお願いいたします。

今年は協会創立40周年の節目の年となります。この度、総務委員長を継続して努めさせて頂くと同時に創立40周年記念事業実行委員長を仰せつかりました。皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

☆企画・対外交流委員会

委員長 角 信彦
株式会社 愛研



5月9日の第1回理事会において、新しく企画・対外交流委員会が承認されました。2つの委員会が再統合され、協会行事の企画・運営、行政・他団体との交流などを主な役割として6名のメンバーで活動していきます。

愛環協は、信頼できる測定分析結果の提供を目的に、

☆教育研修委員会

委員長 服部 寛和
株式会社 ユニケミー



6月2日に日本特殊陶業市民会館を会場に32名が参加し「環境測定分析新任者研修会」を開催しました。(一財)東海技術センター菊谷彰氏による「環境計量の仕事とは」、(株)テクノ中部清水久博氏及び(株)環境科学研究所牧原大氏による「精度よい測定のために」、(株)大同分析リサーチ新谷良英氏による「労働安全衛生」の講義が行われました。

環境計量の要点、サンプリングや分析の基礎、機器分析そして更に労働安全衛生の重要性について、熱心に学びました。今秋の9月14日及び15日に「中堅実務者研修会」を予定しています。多数のご参加をお願いします。

協会の40周年にあたり当委員会の分掌である研修会の更なる充実を図り、一層多くの方が利用いただけるようにしたいと考えております。そして正確なデータを提供できる精度管理の実践に繋がる活動にしていければと願っております。

☆広報委員会

委員長 林 辰哉
一般財団法人 東海技術センター



本年度第1回の広報委員会を5月19日に開催し、会報誌「あいかんきょう」(132号)の編集内容を決定しました。また、10月発行予定の133号の編集方針についても検討し、併せて5月25日開催の定時社員総会と6月16日開催の「環境月間講演会」の役割分担の確認も行いました。132号は愛環協創立40周年記念号とすることから、通常記事には40周年に相応しいコメントを盛り込むこととし、また、特別企画として「新しい力」と題した新記事を掲載することにしま

した。

創立40周年は、長年に亘る諸先輩のご苦労や功績なくして迎えることができないことを我々は忘れてなりません。40年の協会活動を地道にPRし続けてきた広報委員会は、愛環協の事業活動を今後も世間に幅広く伝えていきます。

最後になりますが、菊谷前委員長の意思を引継ぎ新委員長として努力して参りますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

☆技術委員会

委員長 波多野群樹
株式会社 愛研



5月31日に第1回全体会議を開催しましたので報告いたします。

☆水質・土壌ワーキング

模擬排水中の重鉛及び全クロムを対象とした第1回共同実験は、8月10日を報告期限として実施中です。その後、11月上旬に中間報告、12月初旬に測定精度向上を盛り込んだ結果報告会を予定しています。

☆大気・臭気ワーキンググループ

本年度は第2回共同実験を予定しています。勉強会や共同実験で「今後希望する共同実験は?」というアンケートに対し、「水銀濃度」を希望される事業所様が多く、平成27年度には「ガス状水銀濃度」の共同実験を実施しました。そこで、本年度は「粒子状水銀濃度」の共同実験を実施する予定です。

日程は、7月募集案内の配付、9月試料配付、10月結果報告、1月第2回共同実験結果検討会及び意見交換会を予定しています。

☆騒音・振動ワーキンググループ

委員が1名入れ替わりとなりますが、引き続き昨年度までと同様の5名体制で進めてまいります。

本年度は、勉強会を実施する予定で、その内容は久しく実施しておりませんでした振動に関して、その基礎的な事項について勉強していただきたいと考えています。

開催時期は、平成30年2月頃を予定していますので、楽しみにお待ちしております。

以下、委員長としての抱負とさせていただきます。

この創立40周年という期に長尾前委員長より技術委員長を引き継ぎました。「若返り」というほど若くありませんが頑張ります。よろしくお願いたします。

さて、当委員会では主に共同実験・勉強会等を通じた情報提供、定例行事としてガスメータの自主検査を行なっ

ております。また、法改正、基準値変更が生じた場合には規定集への反映を行なっております。これらは他の外部精度管理試験にも共通して、日常から精度管理の意識を維持する一助となっていることは確かであります。

今年度も加盟事業所様に対してはもちろんの事、勉強会へ出席いただく技術者同士や経験豊富な委員とのコミュニケーションの場を提供するなど、協会がより身近な存在として、利用価値のある発信源として感じていただけるよう努めてまいります。

☆ホームページ委員会

委員長 金田哲夫
株式会社 環境公害センター



本年度第1回ホームページ委員会を4月24日に開催いたしました。ホームページの更新作業は4月7日、6月9日に実施しました。第1回の委員会では平成28年度写真コンテストの審査結果を理事会に報告して承認が得られたので、総会においての表彰準備を行いました。また今年度の活動として委員の増員、資料保管庫の整備、ホームページ掲載内容の見直しを実施することが決まりました。次回の委員会は6月26日に決まりました。

愛環協が40周年を迎えホームページ委員会としては、協会ホームページが、会員皆様への情報発信の中心として、また掲載内容が充実出来るように委員全員で活動していきたいと思っております。

☆災害緊急時対応委員会

委員長 林 昌史
株式会社 環境科学研究所



本年度第1回となる災害緊急時対応委員会は、5月9日に開催されました。委員会では、3月21日に開催されました特別企画セミナーにおけるアンケート結果の確認、及び今年の愛知県との災害合同訓練への参加方針の確認を行いました。

協会創立40周年を迎える今年、前任の大野委員長に代わり災害緊急時対応委員長を努めさせていただくことになりました。環境測定分析業界において、愛環協は全国に先駆けて自治体との「災害時における化学物質等の調査に関する協定」を締結しています。今後は災害に対する備えと訓練は益々重要になって来るものと思っております。委員会活動に対する皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ブロック紹介及び今後の抱負

☆第1ブロック

ブロック長 氏原和彦
株式会社 テクノ中部



第1ブロックは、名古屋市南部の港・中川・南・熱田区に所在する会員11社で構成されています。この地区は製造品出荷額が名古屋市全体の約48%を占めているとのことであり、工場の集積地となっています。会員は、親会社に付属する測定分析機関、製造業やコンサルの併業機関および測定分析専門機関と様々ですが、各社とも高水準の計量品質を実現するよう、事業に取り組んでおります。

ブロックとしての活動は、毎年度ブロック会議を2回開催し理事会や委員会報告および会員相互の情報交換を行っています。毎回、夜の懇親会も賑やかに開催しており、風通しの良い活動を続けていければと思っております。

☆第2ブロック

ブロック長 林 昌史

第2ブロックは名古屋市の中心から北部に所在する会員企業で構成されており、現在20社と最も会員数の多いブロックです。

定例のブロック会議では、理事会や委員会の活動報告のほか、各社近況報告でも活発に情報交換をしております。また、ブロック会議後の懇親会では、環境分析の話題にとどまらず、時事問題、旅行や趣味、家族の話など幅広い話題でざっくばらんに相互の意見交換をしております。

40周年の大きな節目を迎え当ブロックは、会員企業数が最も多いブロックとして協会の動きや活動を伝えるだけでなく、会員企業の意見や想いを積極的に協会の活動に生かしていけるよう、今後もブロック活動を進めてまいりたいと思っております。

☆第3ブロック

ブロック長 林 辰哉

第3ブロックは、名古屋市の中心から南東部に所在する会員企業10社で構成されています。

定例のブロック会議では、協会活動の取組報告だけでなく、会員企業が抱える問題やアイデアを協会活動として取り上げていけるようなブロック活動を目指します。ブロック

会議の開催は、時には他ブロックとの合同開催や、懇親会では会長・副会長を始めとした理事の方々や事務局長にもご参加いただき、会員同士の更なる親睦を深める場としていきたいと考えております。

ブロック長という大役を果たせるように頑張りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

☆第4ブロック

ブロック長 阿部裕士
株式会社 三進製作所



第4ブロックは名古屋市を除く尾張地区の会員企業13社で構成されています。年2回のブロック会議で愛環協の様々な取組と情報をブロックメンバーに直接伝えるとともに、会員企業相互の情報交換を行っています。ブロック会議は他のブロックと合同で行う場合もあります。

40周年を迎え愛環協がさらに発展していくためには会員企業の活性化が必要です。初めてのブロック長就任で不慣れではありますが、会員相互のふれあいの密度を上げて、活力のある情報交換の場にしていきたいと思っております。皆様のご協力をお願いします。

☆第5ブロック

ブロック長 大野 哲

第5ブロックは、愛知県の三河を中心とした広域エリアとなります。現在第5ブロックは17会員で、ものづくりメーカーから農業分野まで多くの会員がお見えになります。また第5ブロックでは、施設見学会や勉強会を開催するなどの独自のブロック活動も行っています。

今年愛環協創立40周年を迎えるにあたり、諸先輩方が築き上げた功績に改めて敬意と感謝を申し上げます。近年は、若手の環境計量士や経営者層が増え、世代交代が進みつつあります。先輩から受け継いだ環境を守る熱意と技術と知識を会員同士で切磋琢磨しながら次世代につなげていきたいと思っておりますので、今後とも宜しく願い申し上げます。

平成29年度 定時社員総会

一般社団法人愛知県環境測定分析協会の本年度定時社員総会が5月25日に名古屋市中区のプリンセスガーデンホテルにおいて、愛知県環境部環境活動推進課長の川村雄司様、愛知県産業労働部商業流通課主幹の伊藤和之様にご臨席をいただき開催されました。



伊藤様(左側) 川村様(右側) 河野代表理事

河野代表理事の挨拶、来賓の川村様にご祝辞をいただいた後議案が審議され、平成28年度事業報告、平成28年度収支計算書、並びに役員を選出、定款の改定について、全て原案どおり承認されました。

平成29～30年度 愛環協役員一覧

役員	氏名	所属事業所
会長	河野達郎	一般財団法人 東海技術センター
副会長	大野 哲	株式会社 イズミテック
理事	阿部裕士	株式会社 三進製作所
理事	氏原和彦	株式会社 テクノ中部
理事	金田哲夫	株式会社 環境公害センター
理事	角 信彦	株式会社 愛研
理事	田村励治	一般社団法人 愛知県薬剤師会
理事	濱地清市	株式会社 ユニケミー
理事	林 昌史	株式会社 環境科学研究所
理事	武藤鉦一	東亜環境サービス 株式会社
監事	大場和子	株式会社 東海分析化学研究所
監事	佐野教信	壽化工機 株式会社
監事	柴田金作	藤吉工業 株式会社
顧問	濱地光男	株式会社 ユニケミー

注)定款の改定により「代表理事」を「会長」に「副代表理事」を「副会長」に名称変更となりました。



市川ゆかり氏



総会風景

また、総会に先立ち長年にわたり計量士として計量管理の推進に尽力し計量技術の向上と計量思想の普及に貢献のあった一般財団法人東海技術センターの市川ゆかり氏が愛知県計量関係功労者として愛知県知事から表彰を受けました。

ついで、愛知県環境測定分析協会正会員従業員表彰が行われ、13名が協会代表理事から表彰を受けました。

従業員表彰受賞者一覧

氏名	所属事業所
伊藤 智	株式会社 環境科学研究所
岡崎 正憲	一般財団法人 東海技術センター
近藤 和彦	三協熱研 株式会社
杉浦 正浩	株式会社 テクノ中部
鈴木 幸世	株式会社 東海分析化学研究所
住田 龍彦	株式会社 ユニケミー
成山 将	株式会社 三井化学分析センター 名古屋事業所
松村 満	株式会社 テクノ中部
眞野いづ美	株式会社 イズミテック
水野 由教	株式会社 環境公害センター
八尾 剛弘	株式会社 大同分析リサーチ
山田 龍一	株式会社 環境科学研究所
芳田 英朗	東亜環境サービス 株式会社



受賞者記念撮影

また、本年度環境に関する喚起標語特選としてサンエイ株式会社の鈴木大地氏が、第3回愛環協写真コンテスト金賞として角信彦氏が選ばれ、協会代表理事から表彰を受けました。



鈴木大地氏



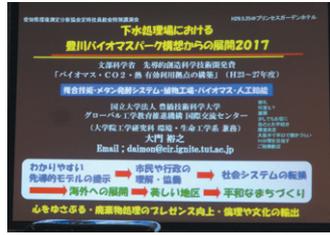
角信彦氏

第3回 愛環協 写真コンテスト入選者

	氏名	所属事業所
金賞	角 信彦	株式会社 愛研
銀賞	犬飼量子	株式会社 環境公害センター
入選	氏原和彦	株式会社 テクノ中部
入選	大鐘裕道	株式会社 環境公害センター
入選	柴田国久	一般財団法人 東海技術センター
入選	高橋哲哉	株式会社 イズミテック
入選	濱地光男	株式会社 ユニケミー

金賞作品は、本誌の表紙を飾っています。

総会終了後、国立大学法人豊橋技術科学大学教授の
大門裕之様による「下水処理場における豊川バイオマス
パーク構想からの展開2017」と題した特別講演が行われ
ました。



大門裕之様の特別講演

豊川バイオマスパークでは、東三河地区の広域で下水
処理を担っている豊川浄化センターの敷地内で下水汚泥
と周辺地域から集めたバイオマスを有効利用するための
実証実験がおこなわれています。メタン発酵し得られたバ
イオガスは発電に、残渣は加工し肥料とするほか、ガス精
製過程で発生する二酸化炭素や熱をグリーンハウスや海
草の養殖に利用するといった、エネルギーと資源の循環シ
ステムについてご説明いただきました。また、この構想につ
いて事業評価をおこない、さらに新たな事業へ展開してい
る事例をご紹介いただきました。

講演のあとは恒例の懇親会が催されました。新理事が
紹介され、会員同士の親睦を一層深めることができました。
(文責 林辰哉・市川ゆかり)



懇親会風景

この度、愛環協の理事を務めさせて頂くこととなりました
田村でございます。愛環協は初めてなので、ご迷惑をお掛
けることも多いと思いますが、皆様どうか宜しくお願いしま
す。

まず、自己紹介をさせていただきます。生まれは徳島、愛知の
大学を出て直ぐに薬剤師会に就職しました。趣味はゴル
フ、肌が黒くて上手そうに見えますがそうでもありません。
業務では、水道水質検査や簡易専用水道検査、また過去
に苦勞した土壌汚染調査や水域調査などを得意分野とし
ています。特に水道は給衛協の委員や理事を務め、国と
共に精度管理の企画や会員及び自治体に向けた研修を
おこなっています。愛環協では、微力ですが会員の皆様に
満足して頂けるよう努力してまいる所存です。簡単ではご
ざいますが自己紹介を兼ねて就任の挨拶とさせていただきます。

☆武藤 鉦一

東亜環境サービス株式会社



本年度愛環協定時社員総会におきまして理事に任命さ
れました、東亜環境サービス(株)代表取締役の武藤鉦一
でございます。入社して39年目になります。愛環協が今年
創立40周年を迎えますので、私とともに歩んできたと思っ
ております。

最近の分析業界は全体的に低価格となっており、非常
に難しい時代になっておりますが、日環協の中部支部会で
話があったように、官公庁において最低入札制度ができれば
よい方向に進むと考えています。

私は約30年前に愛環協理事を2年、広報委員、技術委
員、今はありませんが計量証明書を作成する様式委員とし
ても活動させていただきました。この経験を活かし、皆様と
協力して、愛環協がますます発展していくよう努力してい
く所存です。

☆濱地 清市

ユニケミー株式会社



愛環協40周年の節目に新しく理事を拝命しました。長年
にわたり業界の発展のため愛環協に尽力された諸先輩方
に心より感謝申し上げますとともに、尊敬の念に耐えませ
ん。

環境測定分析をはじめとする理化学分析技術、そして
この技術を持つ人材は日本の宝です。この素晴らしい技

新理事紹介

☆田村 励治

一般社団法人 愛知県薬剤師会



術を世に知らしめて、より社会に貢献することが私の使命であり、業界の発展に寄与すると信じて止みません。私たちの業界が一番大切に「変えてはいけないこと」を変えないため、時代に合わせて「何を考えるか」を考えながら一歩ずつ実行して参ります。

愛環協をよりよい方向へ動かすため全力を尽くす所存です。皆さまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

平成28年度 景況調査結果報告

総務委員長 大野 哲

【概況】

平成28年度の景況調査を実施いたしました。調査対象は協会71会員で、有効回答は47件(回収率66.2%)でした。集計方法は、「好転」した率から「悪化」した率をマイナスする方式としております。平成28年度のDI値は、前年よりやや減少し、+6.4でありました。(平成27年度のDI値は、+8.7)

表1 平成28年度 DI値

好 転	23.4%(11社)
変化なし	59.6%(28社)
悪 化	17.0%(8社)
平成28年度 DI値	6.4
平成27年度 DI値(参考)	8.7

備考)DI値(景気動向指数):景況について、「良い/悪い」、「上昇/下落」といった定性的な指標を数値化したもの。

良くなった主な要因としては、「受注数量の増加」が10件(43.5%)と最も多く、次いで「取引先の増加」が6件(26.1%)、「受注価格の上昇」、「技術力の向上」、「業務の効率化」は各2件(各8.7%)、「新規分野の拡張」は1件(4.3%)でありました。この傾向は、前年とほぼ同じですが、「受注価格の上昇」の回答2件は、昨年は0件でしたので注目されます。また悪くなった主な要因は、「受注数量の減少」8件(38.1%)が最も多く、次いで「価格の低下」7件(33.3%)、「競争の激化」4件(19.0%)となり前年と同じ傾向でありました。

【平成29年度の見通し】

本年度の見通しは、「良くなる」が4社(8.5%)、「変わらない」が32社(68.1%)、「悪くなる」が11社(23.4%)でした。「悪くなる」の回答が増加し、平成28年度のDI値結果に比べて一層厳しい見通しとなっています。

【受注形態について】

今回も会員の計量証明事業の社内受注に関するアンケートを実施いたしました。「社外からの受注が過半数を占めている」は、30社(63.8%)。「親会社等を含む社内からの依頼が過半数を占めている」は、17社(36.2%)となり、前年の傾向と同様でありました。

【現在の経営課題について】

現在直面している経営課題について最大4つまで挙げていただきました。今回も前年と同様に「技術者教育」が34件(21.8%)と最も多く、次いで「設備・機器等の更新」が26件(16.7%)、「人件費の増加」が17件(10.9%)、「従業員の確保」が16件(10.3%)となっています。また「需要の停滞」が増加し14件(9.0%)、次いで「取引条件の悪化」13件(8.3%)、「経費の増加」13件(8.3%)と続く結果となっています。今回は、「IT・システムの更新」が若干増加し12件(7.7%)となっています。会員の皆様の参考になれば幸いです。

平成28年度

特別企画セミナー アンケート結果報告

前災害緊急時対応委員長 大野 哲

平成28年度 特別企画セミナーを3月21日に日本特殊陶業市民会館の3階第1会議室にて開催し、54名に参加頂きました。

1. 実施内容

環境計量証明業界の最新動向について

(一社)日本環境測定分析協会 会長 田中正廣 氏

【第1部】

計量証明事業所への立入り検査について

愛知県産業労働部商業流通課 主幹 米原 秀起 氏

【第2部】

南海トラフ巨大地震と企業経営について

東海リスクマネジメント研究会 理事長 彦坂 高司 氏

愛環協の災害緊急時の対応について

災害緊急時対応委員長 大野 哲

2. アンケート結果

(1)【第1部】計量証明事業所への立入り検査について

とても役に立った	32件	64.0%
おおむね役に立った	17件	34.0%
役に立たなかった	1件	2.0%

セミナーを受け実行しなければと思ったことは?

・事業規定や、細則の見直し	8件
・立入りチェックシートを使った確認	8件
・計量センターへの申告漏れの確認	4件
・精度管理の徹底	2件
・クロスチェックへの参加と結果の有効活用	2件
・計量管理者の後継者の育成	1件
・効果的な教育	1件

(2)【第2部】南海トラフ巨大地震と企業経営について

とても役に立った	21件	45.7%
おおむね役に立った	25件	54.3%
役に立たなかった	0件	0%

セミナーを受け実行しなければと思ったことは？

・BCP作成(見直し)と教育・運用	17件
・災害時の資金調達	2件
・(建物・分析機器の)耐震補強の強化	2件
・リスクマネジメントによる意識改革	1件
・震災発生時の従業員の食料確保とその保管	1件
・津波対策	1件
・地域の協力体制の見直し	1件
・自宅の地震対策	1件

3. まとめ

参加者からの良好な評価を多く頂き、大変有意義なセミナーとなりました。第1部「計量証明事業所への立入り検査について」については、今回4回目となりましたが関心が高く、内容について高い評価を頂きました。計量管理業務の向上に役立てて頂きたいと思っております。第2部「南海トラフ巨大地震と企業経営」に関しても多くの評価を頂きました。BCP(事業継続計画)の導入、教育、運用や必要性への理解と関心がより高まったと思われます。また日環協の田中会長の講演に関しては、さらに詳しく聞きたいとの声を頂きました。今後の参考にさせて頂きたいと思っております。多数の方にご参加頂きありがとうございました。

環境・時の話題

「あいちターゲットとあいち生物多様性戦略2020について」

1. はじめに

昨年6月の平成28年度環境月間講演会で「生態系ネットワーク形成に向けた取組」として環境部自然環境課の來住南様から講演していただきました。その中で、「あいちターゲット」や「あいち生物多様性戦略2020」が紹介されました。今回は、それらについてもう一度簡単に紹介したいと思います。

2. 生物多様性が失われると？

生物多様性とは、生物の豊かな個性のつながりのことです。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、様々な環境に適応して進化し、3000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、すべてが、直接に、間接的に支えあっているという考えかたです。

私たちはその豊かな生物多様性のおかげで、豊かな生態系サービスを受けています。例えば、水産物は生態系サービスのひとつです。私たちは昔から海の魚を食べています。これらは家畜と違い、自然の中から生まれたものです。

海の中には、私たちが食べない魚以外にも、たくさんの種類の小魚や微生物、プランクトンがいます。私たちが食べる魚は、私たちが直接に食べない生きものや魚を食べて大きくなり、それを私たちが食べています。そういう生物多様性があるからこそ、日々の食事で色々な魚を食べることができます。

生物多様性が失われると、魚が少なくなり、食事が貧弱になるだけではありません。例えば、森林は土砂崩れを防ぐ役割を果たしています。つまり、自然災害を防ぐというサービスを、私たちは自然界から受けています。もし、森林などの自然環境が少なくなると、生物多様性が失われるだけでなく、私たちの安全で豊かな日々の生活が危ぶまれることにもなります。

3. 生物多様性条約

このように、生物多様性は、人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすものです。生物には国境はありません。よって、世界全体で生物多様性の保存に取り組もうということで、1992年の国連環境開発会議(地球サミット)で署名されました。

このとき、気候変動枠組条約も同時に作られており、双子の条約とも呼ばれています。当初は、気候変動条約に比べて、生物多様性条約は認知度が低かったようです。

この条約には、開発途上国が自然環境保全を進めていく上で、必要な資金と技術と人材を、どのように先進国が提供していくかということが書かれています。この背景には、1980年代、途上国の開発によって、途上国の豊かな自然が失われはじめたことにあります。当時の途上国にとっては、経済発展が何より重要であり、その妨げになる自然保全活動はなかなか理解が得られるものではありませんでした。また、そのために必要なお金や人材、技術もありませんでした。よって、自然環境保全のために、先進国がいかに途上国をサポートできるか、に主点がおかれまして。

4. COP10で採択された「愛知ターゲット」

その条約に基づき、2010年10月に生物多様性条約の第10回目の締約国会議(COP10・コップテン)が、愛知・名古屋で開催されました。そこでは、「名古屋議定書」と「愛知ターゲット」が採択されるという、歴史的な成果が得られました。

「名古屋議定書」は遺伝子資源の利用と持出に関するルールです。一方、「愛知ターゲット：戦略計画2011-2020」では、2020年までに生物多様性の損失を止めるための効果的で緊急な行動を実施するというミッションのもとに、20個の短期目標(ターゲット)が定められ

ました。

それらの20個は5つのカテゴリーに分かれています。大きな目標のひとつに、「生物多様性が失われている本当の原因に取り組むようにしよう」があります。本当の原因とは私たち一人ひとりの消費活動であることを認識して、各国政府、企業、消費者が取り組んでいこうという目標です。他には、森林の減少や魚の獲りすぎなどに関する目標や、世界中の自然保護区の割合に関する目標などもあります。

5. 「愛知生物多様性戦略2020」について

愛知ターゲットの達成に向け、愛知県は、人と自然が共生するあいちの実現を目指し、「あいち生物多様性戦略2020」を策定しました。

愛知県は、日本一のものづくり県であるとともに農業や水産業が盛んな産業県です。その産業技術と活発な経済活動を活かして、県域全体の自然の保全・再生を進め、「環境と経済の調和」を図ることは、「愛知ターゲット」の達成に向けた世界水準の取組みといえます。

また、この戦略の大きな取組として、里山などの土地の所有者や利用者(企業・行政・県民)、NPO、研究者などがコラボレーションし「生態系ネットワーク協議会」を設置し、連携して地域本来のいきものための場所を確保し、つなげていくことがあります。さらに、土地利用の開発時に、区域内の自然への影響を、回避、最小化、代償の順に検討する「あいちミディゲーション」という先進的な仕組みも導入されています。

6. 参考文献

- ・ベイエフエムHP(入門!生物多様性とCOP10、WWF ジャパン栗野美佳子さんインタビュー)
- ・環境省HP
- ・「あいち生物多様性戦略2020」パンフレット

(文責：大場恵史)

「私の履歴書」(追補版)

「計量証明書様式」

—愛環協計量証明書統一様式の経緯と変遷—

(一社)愛知県環境測定分析協会 顧問 濱地 光男

昭和49年(1974年)に計量法の改正により環境計量証明事業登録制度が開始された。その3年後の昭和52年8月に当協会が任意団体の協議会として発足したのである。

協会の委員会活動として会員の業務に密接な関係があり、協会事業の中で最も早く発足時に組織された委員会の一つである報告書作成委員会を取り上げてみた。

統一された証明書様式を検討するに至った経緯であるが、協会発足当時は計量法においてもその証明書の呼称については何の定めもなく、各事業所において検査報

告書、試験成績書、分析証明書、測定報告書、などなど全く統一した表現はなかった。証明書の書き込みも当時はワープロやパソコンなど無い時代で、項目の欄にゴム印を使用したり、分析結果を手動タイプで打ち込んだりしていた時代である。委員会の名称にも計量証明という表現では無く、「報告書作成委員会」と呼称していた。

当時の初代委員長は(株)愛研の辻本孝氏である。証明書の形式や表現の方法など各事業所まちまちであったこともあり、愛知県環境部から当時の協議会に対して「各所から環境部に提出されてくる証明書がとても見づらい、分析項目の記載順序もばらばらで、統一を図ってもらいたい」との要請を受けて発足した委員会である。

愛知県環境部からの依頼であり、計量証明事業も急成長している時代で早期に様式を定める必要であった。愛知県計量保安課(現在の愛知県計量センター)とも調整しつつ何度か愛知県環境部と原案を練った。翌年の昭和53年5月に様式について会員の同意を得、指定様式の積極的な利用を会員に求めた。

当時は現在のような承認様式は無く、統一様式のみであった。統一様式と言っても大枠的なものであったが、分析項目の順序においては当時から規制のあった生活環境項目のpHからアルキル水銀、PCBの有害項目まで21項目が順序付された。また統一証明書を利用する事業所が勝手に様式等を変更することができないよう証明書欄外の下に協会承認様式である旨の記載と、証明書の印刷はすべて協会事務局で受託したのである。

その3年後、昭和55年に「報告書作成委員会」から「統一様式委員会」と委員会の名称を改め、尾北環境分析の久野良夫氏が昭和62年の総会まで7年間委員長を務めた。その間、会員からの要求もあり大気関係の統一様式にも取り組んだ。

昭和57年にはワープロ、続いてオフコン、パソコンが普及し始め、統一様式だけでは対応しきれず、承認様式が検討され事業所から提出されたものを委員会で審査、承認の番号を発行する業務も委員会で行った。

また、会員からの要請により多試料を併記できる承認様式の検討を始めるが、これには愛知県計量センターの見解ではなかなか承認が頂けず説得に苦慮した記憶がある。愛知県計量センターの見解では一般計量においては1測定(試料)1証明書が原則であったようだ。環境計量特有な受託の状況と委託者の要望などを詳しく説明したうえで、環境計量の証明書については多試料を一括とした計量証明書を発行することに了解を頂いた。これによって協会指定の様式は統一様式と承認様式の2種となった。

昭和62年の総会で藤吉工業の鬼頭富雄氏が新たに委員長として就任され、平成7年まで8年間務められた。その間に騒音・振動にかかわる統一様式を定めるとともに、各種計量証明書の変更承認に伴う「計量証明書取扱要綱、記入要領」を作成し詳細な規定を設け愛環協規定集に加えた。このことにより委員会により審査、承認を行って

きた事務的な手続きは協会事務局において要綱、要領を定めた規定に沿って行えるようになり、平成7年度(1995年)をもって「統一様式委員会」は19年間の活動を終えることになる。

その後、平成14年(2002年)の計量法改正により、計量証明事業者のみが使用することができる「計量証明書」の表現と計量証明書に記載しなければならない最低必要事項も法律により定められた。

このことにより「なんでも計量証明書」は禁止となる。原則、計量法に定められた計量対象物質であり計量法単位を使用した項目以外には「計量証明書」には記載できないことになる。当時、一部では産業廃棄物の分析結果を計量証明書で発行していた環境計量証明事業者もあり、一時全国的に混乱を招いたこともあった。

計量証明書の使用にはいろいろな制約があるので計量管理者は十分な理解が必要である。例えば、計量証明事業者が何らかの理由で計量証明の対象でありながら計量証明書で発行せず、分析報告書などの表現で発行したりした場合であっても、これは計量証明書の発行と同

様に扱われるので、分析過程のチャートや計算の証拠は残し定めた期間保存の必要がある。

新たに規制物質や公定法が定められた時には、その項目、分析方法(公定法)は遅滞なく県計量センターに届け出なくては計量証明が行えないので特に注意する必要がある。

「計量証明書」に関連した事項については、うっかりすると思わぬところで計量法違反となる場合があるので、分析者などへの教育は十分に行う必要がある。

広報委員会：
濱地顧問には、平成27年7月124号から8回の連載と今回の追補版を通して、正に愛環協の歴史そのものを紐解いていただきました。長きにわたる連載、誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



事務局からのお知らせ

鎌田元理事 愛知県功労者表彰 受賞



鎌田務元理事が、6月5日、平成29年度環境保全関係功労者の環境衛生事業功労(長年にわたり環境衛生事業の推進に尽力し顕著な功績をあげた個人)として愛知県知事より表彰されました。
おめでとうございます。

事務局は、8月14日~16日の間、夏季休暇となります。

事務局長 着任挨拶



新任事務局長の杉本利幸です。4月から事務局の立場で環境測定分析の分野やそれを通じた環境意識の普及啓発の事業に携わることとなりました。環境の分野は私自身長く関わってきましたことから、馴染みはありますが、測定分析には高度な専門性を感じます。理事会、総会の慌ただしい年度初めを経て、研修会、講演会等の事業が始まっています。人材の育成等活動が実に盛んで、講師の方、参加者の方の熱心さを気づかされたところです。不慣れなことも多いかと思いますが、こうした取組等を盛り立てられるよう誠心誠意業務に最善を尽くしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

編集後記 (前広報委員長：菊谷 彰)

最後に創立40周年号の編集に携わり広報の仕事を終えることができ大変光栄です。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

2年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

今後の愛環協の発展とともに広報委員会の活躍を祈っております。

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会
会長 河野 達郎
〒460-0022名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (一社)愛知県環境測定分析協会
広報委員会
委員長：林 辰哉、副委員長：豊田豪
委員：市川ゆかり、大場恵史、近藤賢
田村励治、吉成仁志